



<p>R3 : 59) とこちらも伸びており、指導方法の転換が一定の評価を得ていることがうかがえた。</p> <p>しかし、この肯定的意見のうち、半数以上は「ややそう思う」であることや、否定的意見も依然として50近くあることから、この数値に満足することなく、PDCAサイクルを機能させていく必要がある。</p> <p>○生徒18「授業が分かりやすい」(R1 : 51、R2 : 51、R3 : 57)と上昇した背景には、ICT機器利用があるのではないかと。今年度、多くの教員がタブレットやICT機器を授業に利用している姿が見受けられている。動画や資料など視覚的な教材を提供することができている。学習内容の定着度との関連性は今後、検証する必要があるが、次年度からのICT教育の指針につながるデータといえる。</p> <p>○2年生の肯定的評価の数値が、昨年度(1年生)と比較すれば上昇しているものの、他学年と比較して低い水準にある。4月から最高学年として学校をけん引する役割を担う当該学年の生徒たちの気持ちをこれまで以上に学校へ向けさせることが、後輩たちにも好影響を及ぼし、学校全体の活性化につながる。また、納得のいく進路を実現させるためにも、事前指導の見直しなどを含め、当該学年生徒の進路への興味関心を早急に高める必要がある。</p> <p>○生徒15「学校行事が充実している」については、今年度も中止となった体育祭の代替として、各学年が球技大会やミニ運動会を開催してくれたおかげもあり、(R1 : 68、R2 : 69、R3 : 72)とコロナ前の数値(74)に近付いた。</p> <p>○いじめ対策委員会は今年度6回開催された(目標は各学期に1回以上)。いじめと認知した案件は、すべて問題解決に至っている。教員が協力して、情報収集や生徒のケア、指導を行うことなどができたことが、早期発見、早期解決につながっている。その結果として、生徒8「学校がいじめやめ事など見逃さずに対応してくれる」は、(R1 : 43、R2 : 47、R3 : 49)と数値の上昇につながった。</p> <p>○学校経営計画の評価指標の達成度〔 〕がR3年度の目標値</p> <p>1 (1) ア. 教職員項目4~7 R2 : 65⇒R3 : 69 [67]</p> <p>イ. 生徒18「授業が分かりやすい」 R2 : 51⇒R3 : 57 [55]</p> <p>ウ. 生徒19「図書館を利用したことがある」 R2 : 45⇒R3 : 48 [50]</p> <p>2 (1) ア. 教育相談関連 教職員12 R2 : 78⇒R3 : 86 [90]</p> <p>生徒9 R2 : 52⇒R3 : 54 [60]</p> <p>(2) ア. 生徒1「学校に行くのは楽しい」 R3 : 59 [65]</p> <p>イ. 人権関連 教職員8 R2 : 53⇒R3 : 58 [65]</p> <p>生徒17 R2 : 60⇒R3 : 63 [60]</p> <p>3 (1) ア. 生徒3「先生の指導は納得できる」 R2 : 46⇒R3 : 48 [55]</p> <p>イ. 生徒7 規範意識 R2 : 79⇒R3 : 77 [80]</p> <p>(2) ア. 教職員13「特別活動、学校行事が生徒の育成につながっている」 R2 : 69⇒R3 : 68 [75]</p> <p>生徒16「HR活動に積極的に参加」 R2 : 53⇒R3 : 64 [60]</p> <p>イ. 生徒15「行事は楽しい」 R2 : 69⇒R3 : 71 [70]</p> <p>○生徒1「学校に行くのは楽しい」(R1 : 62⇒R2 : 60⇒R3 : 60)</p> <p>保護者1「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」70⇒69⇒64</p> <p>と下降傾向。保護者認識欄には体育祭の中止、文化祭の縮小などを残念がる声も複数。保護者の学校運営に対する評価はほとんどの質問項目で上昇している中、保護者11「学校は家庭への連絡や意思疎通を行っている」(R1 : 64⇒R2 : 67⇒R3 : 64)と下降していることから、家庭との連携を十分に行うことで、情報共有することが、保護者の学校理解につながり、学校との協力体制が構築できるのではないかと考える。授業参観や学校行事への参加率を高め、生徒たちの成長している姿を見ていただくことも、重要であり、学校へ足を運んでいただくための仕掛け、工夫を考える必要がある。</p> <p>○教職員10「校則について話し合う機会がある」(R1 : 40⇒R2 : 62⇒R3 : 50)</p> <p>昨年度、職員会議の時間を利用して、服装に関する校則の意見交換やみなしを実施したが、今年度そこまでの議論が行えていない。職員会議の在り方が問われる中、どのような形で教員が話し合う時間を確保していくのかを考えていかなければならない。</p> <p>○生徒12「進路情報を知る機会がある」(R1 : 74⇒R2 : 74⇒R3 : 78)</p> <p>2年生が昨年度63から今年度72と9ポイント上昇した。3年生に向けての心構えができつつある。しかし、それでも(肯定的意見の)学校平均を下回っており、取り組みの目的や意義をきちんと理解させ、進路に関する行事の意識付けをきちんと行うことで、よりよい進路選択のための情報提供をしっかりと行っていく。</p>	<p>一定員割れに伴う教職員減に対して、業務のスリム化、分掌の形態や内容の検討</p> <p>3. 教育支援委員会について、活動内容や対象生徒、支援教育コーディネーターなどについて知りたい。</p> <p>→身体的ハンディキャップ、発達の問題、心身の問題、環境の問題をもつ生徒などが広く対象である。</p> <p>→委員会は、担任、学年、保健室、保護者と連携し、SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)、外部機関と協力をしながら、個別にどんな支援が必要かを調整し、まとめる役割を担う。</p> <p>→支援教育コーディネーター(委員長)と、各学年に支援コーディネーターを置いて情報共有をしている。</p> <p>4. With コロナとしてどんな対策をしているか。</p> <p>→現在、ワクチンを打っても感染予防対策を続けさせるために、手洗い、マスク着用、こまめな換気の指導を継続中。(保健部)</p> <p>→前年度に構築した対策プランに、今年度からの追加はないが、今後影響が軽くなるようであれば、次年度から検討していく。</p> <p>5. オンライン授業は伝える側(先生)のスキルが重要。具体的なスキルアップへの取り組みは?</p> <p>→府からの指示で「3年計画」で実践していく。今年度については、まず1人1台端末の配布、タブレット端末の取り扱い方を生徒に伝達できるよう研修を持った。学習支援クラウドサービスを利用して、HRクラスでの連絡や各教科の授業の補助を行った。</p> <p>→オンライン委員会の教員による校内研修を通じて、全体のスキルアップに努めている(本来は、府が専門の担当者を置くべきだが)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目的などの生徒にも自己肯定感、有能感を育むことである。「自分のいいところ探し」をどのようにさせるか。それができる授業をどうつくるか。そのためにも、特に教職経験年数の少ない教員の授業力の向上が喫緊の課題である。校対授業研究会の充実を期待する。</li> <li>・「言葉の力」が写し今の子どもたちにとって、ソーシャルスキルは社会で健全に生きていくためには欠かすことのできない能力である。他校で実践している演劇的手法などを研修に取り入れるなど、コミュニケーション力の育成と指導へのフィードバックをしていただきたい。キャリア教育の充実も必要。</li> <li>・「成長した生徒を表彰」というのは大事なことだ。アンテナを張りめぐらし小さなことからたくさんほめてあげてほしい。</li> <li>・授業研修で「他校及び外部の公開授業等への参加」というのはとても良いことだ。私は中学校教員だが、小学校、幼稚園の先生方に感じすることも多い。校種の枠を超えて学んでほしい。</li> <li>・オンライン授業とハイブリッド授業など、コロナにも負けない強い学校体制を組み、それをメッセージとして地域・保護者・特に中学生に伝えて志願者増加に繋げてほしい。</li> <li>・豊かな心の育成は、個々によって違う。先生方の豊かな心のイメージを持って共育してほしい。</li> <li>・雨天の自転車登校はレインコート着用は必ず。傘さし運転は大変危険で、他者を巻き込む可能性もある。今一度、徹底してほしい。</li> </ul> <p>【第2回】(12/13)「1人1台端末「オンライン授業」について」と「観点別学習評価の取り組みについて」協議</p> <p>(1) 1人1台端末「オンライン授業」について</p> <p>Wi-fi環境、タブレット端末教員用、生徒用の整備状況について担当者としての心配4点</p> <p>①保証は本当に無制限なのか?</p> <p>②3年生が使用しているタブレット端末を次年度の1年生に流用する(使い回す)のか?</p> <p>③モバイルWi-fiは緊急時(休校時)にしか使えないと言われている。これでは家庭に設備がない生徒への平等性が保たれない。</p> <p>④各校にスペシャリストがいるわけではない。教員でカバーできる範囲を超えている。</p> <p>A) 各項目、よく理解できる。質問・感想をお願いしたい。</p> <p>A) 学習支援クラウドサービスはどの程度使っておられるのか。</p> <p>担当) 全生徒が登録され、各クラスや、科目別のクラスルームで連絡や、教材の閲覧などを行っている。3年生は教養数学などで全員が使っている。Web会議システムも試行している。</p> <p>教員①) 今のクラスルームの様子を見ていただきたい。(ステップアップ講座の確認テスト、Web会議システムのリアルタイム授業の録画映像を視聴)3年後にはすべての教員にこれができるように、という計画が指示されている。</p> <p>B) 本校でも学習支援クラウドサービスは活用している。先ほどの説明に対して疑問がたくさんある。大阪府とリース契約をしているのであれば、保証は厚いはず。リース契約の書面を公開してほしいのか。他にも、マニュアル作成やインフラメンテナンスなどの部分はすべて府教委の責任で行えばいいことだと思う。学校の先生は、生徒と向き合う時間を大切にもらったほうがいい。</p> <p>A) 教育センターにいって身にとっては耳が痛い、全くその通りだと思う。センターに行った折に、現場の声として伝えさせていただきたい。</p> <p>C) 東大阪は、タブレット端末を1人1台持ち帰りとしている。保証は、故意でなければ返品交換となっているが、義務教育段階の生徒指導の観点で、「すべて保証」ということを伝えることは控えている。卒業した生徒の端末は、回収されて、次のユーザーに回る。</p> <p>Wi-fiは家庭に環境がない場合はペーパーベースの代替え指導、FreeWi-fiを利用してもらったりしている。マニュアルなどはほとんどないので、教員も使いながら覚えていっている。</p> <p>東大阪では学習支援クラウドサービスを使用している。各種アプリケーションソフトの導入が進んできているが、データ通信量が多くなるので、休校時のオンライン授業には使用できない。オンラインベースではなく、1人1台端末を持って効果的な学習をどうできるか、という取り組みの方向性。</p> <p>D) 体重がかかって破損した端末に関しては保証してもらった例がある。端末を使いこなすのが目的ではなく、今までの学習をより効果的にするには、という活用方法。修学旅行に持参させて写真を撮り、グループごとに発表させたりしている。研修面では、樟蔭女子大学の今田先生に研修の講師をしていただいている。</p> <p>E) 会社の経営者間の会議はWeb会議になった。だが、コミュニケーションが大事であるので、オンライン授業で1つの画面に40人参加しているのは困難な状況だろう。自主性のある人材の育成を大切にしてほしい。情報の即時性は便利だが、オンライン上の対面で議論するためには気をつけていかないといいけない。チャットで会話する人間ではなく、発言力のある人材育成を望みたい。</p> <p>F) テスト期間中、息子のLINEに頻りに「プリント送って」という友人からのリクエストが送られてきて、勉強が邪魔されている様子。友達思いなのはいい、先生がクラスルームにプリントをアップしておいてくれたら家族としても助かる。</p> <p>C) 保護者は登録できないのか?</p> <p>担当) 府教委から、アカウントは一人1つしか配布されていない。</p> <p>教員①) 保護者の紐づけはできるが、通知しか行かないのであまり意味がない。</p> <p>(2) 「観点別学習評価」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度の夏に手引の暫定版が送付されてきた。</li> <li>・令和3年度周知、令和4年度実施</li> <li>・今年度のロードマップの説明</li> </ul>
---	--

- ・評価の対象や方法によってどのように捉え、内規に反映していくかという点で、各校でかなりのばらつきがある。
  - ・ばらつきがある評価の軸の結果が、進路を選ぶ際の入試や採用試験にどう影響しているのか。すでに先行されている中学校ではどのような苦労や成果があったのか。保護者の視点としてはどうか。
- A) 大学入試は、入試の採点・評価は教員が扱わない事になっていて、事務方が行う。そのため、入試に関しては回答できない。大学の授業評価も3観点である。シラバス作成は綿密に作りこむ必要があり、苦労している。3観点の割合、授業内評価の割合、試験での評価割合も細かく計画する。事前に評価のルーブリックを組んでおき、学生はそれを見ながらめざすべきレベルを判断している。授業づくりは、マニフェストとルーブリック作成から始まる。
- その分、評価はそれに当てはめて行くことで算出されるようになっている。私の場合は思考・判断・表現を大切にしているので、その割合が大きい。
- 授業の最初に授業のねらい、課題の目的を明示しなくてはならない。ルーブリックを見て、こうなってもらいたい姿が伝わる。
- E) 企業としては、主体性があるかないかをまず見る。10年後どんな自分になってほしいかを毎年問うている。3つの観点は相互に関係していると思う。
- 知識に自信ができれば、他の2つにもプラスの影響が出てくるだろう。
- 定量と定性の両方が大事。企業であれば、売上も、ビジョンも必要であると同じ。
- D) 本校はAO入試をきっちりやっている学校であると思う。AOで選考したあとに調査書を見ると、学校ごとにこれだけ違うのか、という内容である。しかし、入学後に学生がそれぞれの自信をどう取り戻すか、というのをポイントにしている。それさえあれば伸びていく。
- 4月の最初の1週間をしっかりと教え込むことで、一日でも早く専門学校生としての自覚を持った入学者を迎えるようにしている。
- B) 中学校では4観点から3観点になったが、それぞれの観点をどうみとるか、点数化するか。例えばノートでも、かつては提出するかしないかで見ていたが、今はノートの書き込み内容に関する基準を確認したり、基準を文章化して保護者にも示している。評価に対する説明責任を果たせるようになったということは、いいことだ。保護者にとってわかりやすくなっているのではないかな。
- C) 定期テストは観点別に色分けして集計。採点にも時間がかかる。
- 授業の振り返りをタブレットを使って残していき、評価に取り入れている。一方通行の授業では振り返りは生まれないので、ふりかえりの生まれる授業を計画する必要がある。また、毎時間ごとに生徒がどんなことを吹いているかを先生方は記録していかなければいけない。指導と評価の一体化が大事だ、ということを基本にしている。
- F) 小学生の子どもがいる。得意、不得意を見ると、先生の一言が大事。細かく書いてくれると、先生は良い点をしっかり見てくれるな、と思っている。
- 【第3回】(2/7予定)
- (1) 令和3年度学校経営計画について
- ・各分掌、学年から今年度総括
- (教務)：学校教育自己診断【教職員】の4. 教育課程、7. 成績評価のあり方など4項目は70%以上の肯定的回答であった。今年度は観点別学習評価に関する研修等を充実させてきた成果である。
- (生徒指導)：R3学校経営計画3. (2) 年間遅刻総数の下回るべき目標値を超えてしまった。コロナや3年生が最後に増加したことなどの要因はあるが、怠惰な遅刻は減らしていく必要がある。
- 部活動加入部率については、コロナ禍で年度初めに新入生に対する勧誘が十分できなかったことがあるが、手立てを考えたい。
- 懲戒事案の年間概要について。規範意識の崩れは、きちんと指導していきたい。
- (保健)：R3学校経営計画2. (1) 教育相談、教育支援については、保健室とも連携しながら充実させることができた。コロナ対策については、昼食時の黙食への呼びかけを生徒が放送している。
- (進路)：専門学校進学が例年より多い。看護系進学は2名で、例年より少ない。個別相談の充実などで進路指導への肯定的回答は多かった。進路行事実施時の事前指導も含め、充実させていきたい。
- (企画)：図書室の利用率の上昇が見られた。目標値には到達していないが、年次が上がるごとに授業での利用もあり、それを機に図書室利用に繋がっている。生徒に人気があるコミックなども取り入れながら足を運ぶきっかけを作れたことが、利用率上昇の要因である。
- PTA活動はコロナ禍の影響で実施したかった内容ができなかったが、学校でのリース作りなどできることから実施した。
- (3年)：16期生は225名で入学し、2年次は208名、現在は195名の在籍となった。定員割れで、学校生活に馴染めない生徒、学力的についでいくのが難しい生徒が入学してきたということが原因のひとつ。
- 進路については、四年生大学29名(昨年53名)・短大16名(ほぼ変化なし)、専門学校82名(66名)、就職はほぼ変わらず。上級学校に進学して学ぼうという生徒が減ってきている。指定校推薦21名、公募制推薦0名。AO入試は、偏差値51までの学校なら100%合格したが、52以上はほぼ不合格であった。
- (2年)：修学旅行は延期。変更して実施できたが、体育祭もコロナ前の規模のものは2年連続繰越さず、文化祭も発表会に変更された。卒業後に向けてどのように進路目標を持たせられるかが課題である。
- (1年)：18期は6クラス募集、4クラス150名でスタート。15期生と比べて落ち着いているし、行事も切り替えて楽しむことができるが、長欠生徒や落ち着いて学ぶことが難しい生徒もいる。学校教育自己診断の肯定的回答が高いのは、できるときにできることをフットワーク軽く実施してきた成果だと思う(遠足、ミニ運動会、球技大会など)。
- 進路についての回答は全体平均より下回っている。学校での分野別説明会が中止されたので、2年次に充実をさせていきたい。
- ・質疑応答
- A)：有効回答数は90%くらいなのだが、例年と比較してどうか。有意差を見るときに必要な。
- B)：例年と同じくらいの回答数であるが、保護者に関しては+30件ほどある。
- A)：大学進学数が減ったとのことだったが、保護者の進路指導への満足度は低くない。これはどうしてか。
- C)：保護者が、生徒の意思を尊重した結果だと思う。
- D)：専門学校選択において、生徒たちは将来のビジョンを描いているのだろうか。目的を持っているのなら良いが、就職したくないからではないのか?勉強したくない子が専門学校に行くと、奨学金という借金を抱えて社会に出ることに危機を覚える。
- B)：高校3年のステップアップ講座を担当している。12名が就職と専門学校、1名が大学進学。「なぜそこを選ぶのか」と生徒に問うてきた。マンダラチャートを書かせて見たら、きっちり書けた。全員がそうであるかはわからないが、意識的に動きかければ、D)委員の心配の件も解消されると思う。
- E)：ここ2～3年で専門学校受験者の状況は変わってきた。昨年度は共通テストの導入もあって11月までに早く決めたいと思っていたようだ。今年度はコロナの影響で目的意識を見失った大学生が中退し、専門学校に入り直していることが目立つ。高校の進路指導が入れば入るほど将来の仕事を見つめて専門学校に入学している。偏差値しか追いかけずこなかった子どもの方が行く先に迷っている。かわち野高校の方針が時代に合っているのかもしれない。少子化でこれまでの概念が崩されていく状況だ。
- F)：キャリア教育と進路指導の違いや重なりがわからない中で進路を見つめさせなくてはならない。中1は仕事の聞き取り、中2は職場体験、中3はかわち野高校での体験授業などを実施している。キャリアパスポートの活用もしており、高校へ引き継いでいきたいと考える。
- 「先生の指導は納得できる」とあるが、遅れが増えている。かつての香津中学もかなり荒れた時期があったが、教師と生徒の対話を深

	<p>め、校則の見直しを含めて時代に合わせて変化しつつ、地域連携してきた。この部分はどうか。</p> <p>B)：同じ生徒が重ねて遅刻するので、複数の教員が入って対話を重ね、悩みを聞きとっているが、なかなか改善に繋がらない。ダメなものダメ、の指導をどう入れていくか。今はアルバイトでさえ遅刻が許され、社会的な責任を学べない時代になっている。保護者もなかなか巻き込めない。学校と保護者の方向性を一致させて指導に生かしていきたい。</p> <p>G)：息子には、家を出るまでは声をかけ続けている。スマホアプリで友人の所在を確認し「友達はまだここにいるから大丈夫」。これでいいのだろうか。監視しあい、友達と一緒にいたい、という風潮が恐ろしい。子どもの同級生の自動車免許取得をその保護者が認めたり、卒業への姿勢を聞くと、保護者が責任を全うしてほしいと感じる。学校任せにすぎている。</p> <p>卒業を間近にして、自分の子どもに対しても、意思決定を促したいと思う。</p> <p>(2) 令和4年度学校経営計画について</p> <p>A)：すでにR3年度については協議ができたので、校長から、R4年度の計画策定について説明いただきたい。</p> <p>B)：1. 「確かな学力」は教員の努力が表れている。「社会人基礎力」は、かわち野今後検討PTで2年前から話し合ってきた。スポーツサイエンス専門コース、情報技術専門コースそれぞれに将来を見据えた体験的学びを重ねて培ってきた。</p> <p>「豊かな心の育成」ではSC、SSWとの連携を持ち、チームで取り組んでいる。</p> <p>R4年度計画は、中長期計画なので、これまでと大きくは変えていない。新カリキュラム、観点別学習評価を運用し、オンライン授業等をすみやかに実施できるようにしていきたい。オンライン授業についてはR4年度からと言わず、すぐにでも実施できる体制を整えていきたい。</p> <p>生徒の「特別活動関連の回答」において、オンライン授業等を重点にして、R3年度に上昇、達成した目標値を更に上げていきたい。</p> <p>A)：前例踏襲ではない、非常にチャレンジングな目標値を上げておられる。これで承認とさせていただきます。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1. 「確かな学力」「社会人基礎力」「真面目に努力し続ける力」の育成	<p>(1) 「わかる授業」の展開</p> <p>ア. 生徒の実態把握および授業研究</p> <p>イ. 校内外の公開授業と授業アンケートを活用した授業改善の推進</p> <p>ウ. 図書室やAL 教室の有効活用</p> <p>エ. 1人1台端末導入にむけての準備やオンライン授業についての研究を行う。</p> <p>オ. 新教育課程及び観点別学習状況の評価へスムーズに移行できるように準備を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教育産業による基礎学力調査等を活用し、生徒の実態把握および基礎力育成重視の授業実践を進める。また、頑張った生徒を表彰して、生徒のモチベーションを向上させる。</p> <p>イ・教職員の少ない教員の授業研究会を中心に校内の授業公開・研究協議をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究のための研修、他校および外部の公開授業等への参加をすすめる。</li> <li>各教科における授業アンケート結果の振り返りを授業研究に活かす。</li> </ul> <p>ウ・図書室やAL 教室の活用で、調べ学習なども取り入れる。</p> <p>エ・オンライン授業委員会を中心に環境整備を推進する。</p> <p>オ・教育課程委員会・かわち野今後検討PT を中心に準備を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断の項目4～7（教育課程・成績評価・学力向上・教育活動全般の評価と取組み）[65%]を67%以上。</p> <p>イ・校内授業研究会 [1回] を学期に1回以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修等の成果報告会を行う。</li> <li>生徒向け学校教育自己診断「授業がわかりやすい」[51%]を55%。</li> </ul> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「学校の図書室を利用したことがある」[45%]を50%。</p> <p>エ・オ ICT 活用やオンライン授業及び観点別評価についての教職員研修を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア R3 69.1% 昨年度の教育課程編成に引き続き、今年度は観点別評価という大きなテーマがあったため、項目 4～7 については、全て半数を大きく上回る肯定的回答数であった。校内研修を一つのきっかけとして、新学習指導要領や観点別評価を中心とした意見交換が行われた。(◎)</p> <p>イ R3 : 57.3% 生徒向け学校教育自己診断「授業がわかりやすい」目標 55%を上回る57.3%。10年め研修教員 4 名と首席、教務部長でチームを作り、観点別学習評価の実施に向けた授業検討を年間通じて行い、授業公開期間を 9 月と 11 月の 2 回、職員研修を年 4 回実施(予定を含む)した。ICT を活用した授業も徐々に増えつつある(◎)</p> <p>ウ R3 : 48.1% 目標値の 50%には届かなかったものの、着実に利用者割合は増えている。(△)</p> <p>エオ 研修会を 2 回実施。端末配布の方法や端末操作について研修を行った。多くの先生が学習支援クラウドサービスの開設や運用を行うことができるようになってきている。(◎)</p>
	<p>(2) 多様な進路実現のための取組み</p> <p>ア. キャリア教育計画の充実</p> <p>イ. 進学支援体制の構築</p> <p>ウ. コース制のさらなるブラッシュアップ</p>	<p>(2)</p> <p>ア・3年間のキャリア教育計画を全教職員で共有する。</p> <p>イ・3年間を見通した進学支援体制を構築する。</p> <p>ウ・かわち野今後検討PT において、コース制のさらなるブラッシュアップについて検討を継続する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・各学年のキャリア教育計画表の作成。</p> <p>イ・進学支援計画表を作成。</p> <p>ウ・かわち野今後検討PT を月1回以上定例開催して、議題について検討する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア 各学年の計画表を作成した。(○)</p> <p>イ 基礎力診断テストを有効活用できた。また、進学支援計画表を作成した。(○)</p> <p>ウ 検討案件の新カリ作成が完成して本PT は一旦休会したが、年末から再開した分掌統合に向けてのPT で月3回のペースで開催している。(○)</p>

2 「豊かな心」の育成	<p>(1) 教育相談体制の充実・教育支援委員会の有機的運営 ア. 支援体制の確立</p> <p>(2) 人権尊重教育の推進 ア. 学校いじめ防止基本方針の徹底・いじめ対策委員会の有機的運営 イ. 人権教育計画の充実 ウ. 教職員の人権意識向上のための取組み</p> <p>(3) コミュニケーション能力を養成する教育 ア. クラス開きプログラム等の人間関係構築プログラムの研究および導入に取り組む。</p>	<p>(1) ア・支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の拡充 ・教育支援委員会主催の職員研修の実施</p> <p>(2) ア・学校いじめ防止基本方針に従い、安全で安心な居場所としての定着を図る。 ・いじめ対策委員会の定期開催・情報共有の徹底化 イ・3年間の人権教育計画を全教職員で共有する。 ウ・教職員人権研修を実施する。</p> <p>(3) ア・ソーシャルスキルトレーニングの取組みを受けて、クラス開きやコミュニケーション力向上を目的としたホームルームでの取組みを実践する。</p>	<p>(1) ア・教員向け学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答 [87.2%] を90%。 ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答 [51.9%] を60%。</p> <p>(2) ア・いじめ対策委員会を学期に1回以上 ・生徒向け学校教育自己診断の「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答 [60.1%] を65%。 イ・教員向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的回答 [52.7%] を65%。 ・生徒向け学校教育自己診断の人権教育関連の肯定的回答 [59.9%] を60%。</p> <p>(3) ア・クラス開きやコミュニケーション力向上を目的としたホームルームでの取組みの実施</p>	<p>(1) ア 教員の肯定的回答は86.5%で、昨年度の87.2%から若干低下したものの、高水準を維持した。(△) ・生徒の肯定的回答は54.4%で昨年度より2.5ポイント上昇した。(○) 職員研修や拡大ケース会議を通じて教員がSCやSSWの職務を知り、保健室とも連携することで、支援体制を充実させることができた。(○)</p> <p>(2) ア いじめ対策委員会は事象発生後に計6回、速やかに実施できた。また、生徒の肯定回答は59.2%と0.9ポイント下げたが、コロナの学校生活の制約が原因と考える。(○) イ 教員は57.9%、生徒62.8%。ともに人権意識は向上している。教員の研修前の診断結果であることが、目標設定を下回った原因である。(○)</p> <p>(3) 1年) コロナ感染防止対策のため、自己紹介シートの記入と掲示、2学期にチームワークの向上を図るための研修「ペーパータワー」を実施してコミュニケーション活動に取り組んだ。(○) 2年) 行事が中止になる中、SHRでの1人1分間スピーチやビデオ動画やモザイクアート作製等、各クラスの取組みを実施した。(○)</p>
-------------	--	---	---	---

<p>3. 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する力」の育成</p>	<p>(1) 規範意識と社会性を高める教育を推進                  ア. 生徒指導に関する全教職員の共通理解・情報共有                  イ. 遅刻者の減少とマナーの向上</p> <p>(2) 生徒自らが積極的・自主的に活動できる力の育成                  ア. LHR・総合的な探究の時間の計画の充実                  イ. 部活動の活性化と生徒会活動の充実</p>	<p>(1)                  ア・生徒の実践部屋に努め、全教職員での情報共有、指導に関しての共通理解を図る。校則やルールについて、生徒が理解・納得するまで丁寧に説明する。生徒指導内規の見直しを行い、学年相互で指導内容を統一する。                  イ・遅刻を繰り返す生徒への指導の確立                  ・教職員、PTA、生徒によるあいさつ運動をすすめる。</p> <p>(2)                  ア. 3年間のLHR計画、総合的な探究の時間の計画を全教職員で共有し、検証する。首席がまとめ役となり、各学年間の調整・情報共有を行う。                  イ・新入生による部活動見学会、部活動体験を充実させる。                  ・体育祭や文化祭などでは生徒の活動領域を増やし、生徒の自主活動を促進する。</p>	<p>(1)                  ア・生徒向け学校教育自己診断の「学校生活について先生の指導は納得できる」[46.1%]を55%。                  イ・年間遅刻総数[2698件]を2500件。                  ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識についての肯定的回答[78.7%]を80%。</p> <p>(2)                  ア・教職員向け学校教育自己診断の「特別活動、学校行事等が生徒の育成につながるよう工夫、運営されている」[69.2%]を75%。                  ・生徒向け学校教育自己診断のHR活動の肯定的回答[53.3%]を60%。                  イ・部活動加入率[37%]を50%。                  ・生徒向け学校教育自己診断の学校行事関連の肯定的回答[68.9%]を70%。</p>	<p>(1)                  ア 対話を大切にきた指導を行ってきた結果、48.1%と昨年を上回った。傾聴する姿勢、生徒の考えに理解を示す中で、規範意識や協調する大切さなどを説諭できたが、生徒たちの納得感の向上にむけて、より丁寧な対話が必要である。(△)</p> <p>イ 長期休暇明けの遅刻数が増えることは毎年度のことであるが、今年度についてはそれがだらだらと長引いてしまった。R3:3434件 遅刻が度重なる生徒に対して個々に説諭を行い、学年集会などでも時間を守ることの大切さを訴えてきたが、遅刻数の減少には至らなかった。規範意識についても76.6%と前年度から2.1ポイント下回った。(△)</p> <p>(2)                  ア 教職員 R3:68.2%と目標値には届かなかった。コロナの影響での急な学校行事の中止や延期に伴い、行事への事前学習が十分に整備されなかったことが要因と考えられる。しかし、生徒の肯定値が64.0%で目標値を上回ったのは、臨機応変な行事の変更に奔走した教職員への理解を示してくれているからと受け取れる。(△)</p> <p>イ 1年生の入部率が低く、全体での加入率は32.0%と前年度から5ポイント下回った。男子の入部率が低く、友達や知り合いと気軽に入部するというような背景を作り出すことができなかった。(△)</p> <p>・体育祭の中止、文化祭の規模縮小を余儀なくされたが、各学年で工夫して代替の学年イベントを実施したことで、生徒の肯定的回答増加につながり、目標値を上回る71.4%になった。(○)</p>
<p>4. 地域に根ざった学びの場づくり</p>	<p>(1) 広報活動の充実                  ア. 学校 Web ページや中学校訪問・学校説明会等の活用                  イ. 地域の活動や地域に向けた取り組みの参加</p>	<p>(1)                  ア・学校 Web ページで日常的に生徒の活動を発信する。                  ・中学校訪問・学校説明会についての実施形態の検証を行う。                  ・授業公開週間等に、保護者による授業参観の機会を設定する。                  イ・地域の行事への本校生徒の参加をすすめる。                  ・地域中学校との部活動での連携をすすめる。                  ・地域連携事業としての盾津中学オープンスクール、茶道の公開講座を継続する。</p>	<p>ア・学校ブログは毎月10回以上発信。                  ・中学校訪問は東大阪市・大阪市・大東市を中心に70校を目途に実施する。学校説明会への参加中学生数(令和2年度240名)を600名以上にする。                  ・保護者による授業参観の機会の設定</p> <p>イ・地域のイベント参加生徒数(令和2年度不参加)を例年並みの55名に戻す。                  ・本校の体育施設を利用して、中学生との部活動交流を行う。                  ・盾津中学オープンスクール、茶道の公開講座の実施。</p>	<p>ア 学校ブログはコロナ休校によりあまり発信できなかった月もあれば、修学旅行(11月)の現地レポートにより頻りに発信した月もあり、平均すると月8.7回。学校説明会の参加者数は、第4回中止、第5回1名とコロナの影響を受ける形となり、177名に留まった。(△)</p> <p>イ・今年度もコロナ禍において、イベント参加は叶わなかった。盾津中学OSだけは実施にこぎつけた。(ー)</p>

<p>5. 教職員の長時間勤務の縮減および健康管理</p>	<p>(1) 全校一斉退庁日、ノークラブデー（部活動休養日）</p> <p>(2) 外部人材の有効活用</p> <p>(3) 在校等時間の適正な把握</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校一斉退庁日は、定時退庁に努め、遅くとも午後7時までに全員退庁する。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールソーシャルワーカーや部活動指導員、人材バンクの有効利用をすすめる。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から改正された総務事務システムにより、時間外在校等時間を適正に把握し、長時間勤務の削減に向けた取組みに繋げる。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校一斉退庁日（毎週水曜日）の午後7時以降残留教職員数を0名にする。</li> <li>生徒の完全下校時間の遵守。</li> <li>分掌等組織体制の見直し。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールソーシャルワーカーの効果的配置。</li> <li>人材バンクの活用。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員による総務事務システムへの在校等時間の入力</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度より残留教職員は減ったが、3名程度は残留している。(△)</li> <li>生徒の完全下校は遵守できている。(○)</li> <li>5分掌を3分掌に統合した。(◎)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精神的な課題を抱える生徒の保護者に対して、行政機関との橋渡しの役割をしていただくなど、SSW を効果的に活用している。(○)</li> <li>スペイン人サッカー指導者の部活動指導員、本校外国籍生徒の進路実現指導に関する多言語学習支援員等、人材バンクの有効活用ができている。(○)</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SSC 入力への呼びかけはしているので、遅滞は起こっていない。(○)</li> </ul>
-------------------------------	--	---	---	---